

法帝之妃



普王之妃瑪格麗塔



東京銅版師 慶岸堂翠山鐵筆

法普戰爭誌略卷之五



西曆一千八百七十年十二月廿五日即ち

我明治三庚午年十一月四日也

陸奥國志

十二月二十五日○歐羅巴洲之宇內羣雄其居之其
萬邦其深く羨と稱はれ所也而して其内強國と稱は
れを以て英法普魯奥以て其巨魁と號而して此國皆
久しく其爪牙を研き其威力競ひ竟て相互に噬
獲擱撃を逞しふせむことと欲し勢ひ並立はれこと
能はざれば至る當夏以來法普二強其兵端を開きし

より既に五個月に至り、法國 巴里府に籠城殆むと一
百日ならむと云ひ而して、普國の軍威逐日盛大其勢破
竹の如く巴里府城を陥れんと旦夕にあらむと云
今此機に乗し、普國又陸散武流の地を併呑せむこと
謀る此陸散武流を、法蘭西 白耳義獨逸の三國に挾
まじり地にして、往古荷蘭之屬とせ然る中古歐羅
巴の羣雄相謀り此地を裂く獨立の國となせと曩ふ
西曆一千八百三十九年八月十八日、法英魯普奧以蘭
白等の諸國會合して條約をなし其強其大を以て此
國を劫し威は可らば次と盟約せり其後一千八百六

十七年三月十一日、英國 倫敦府に於て大盟會あり此
時、英法魯普奧以蘭白等の諸國の全權公使均しく會
合し新あり約して相俱み其地を補助し敢て其強暴
を加ふ可らば次と盟へば而して若し此盟約をふし
たる國中は一國其強暴傲慢を此國に施せり其他盟
約の國と連横合従して相俱ふ之を討へし此誓約確
然決定不易と垂せしむ此の如き盟約あるに、魯普 貳
強互に相佐る竊り其意を、歐洲に伸むこと、俄計り當
夏以來、獨逸 法國と戦ひ勝る乘して其地を裂き其國
郡を併呑せむと、俄爰に於て、魯國を其臂を伸へし、土耳

其の地を併有せむこと欲謀る而して普國又其武威
を誇り陸散武流の地を取らむと欲し新ちみ使英
境に諸國を送り陸散武流の盟を破らむことを謀り
然れども普魯は兩國相俱み佐る其意を逞しめど
むと欲するのみよる英國と於ても今此破盟の談を拒
むこと能はば然るは勢ひあり未だ其向背を知らば古
へよ強暴は非を以て理を壓し今普國其勢あり人
其傲慢の憎むべきを知ると雖も敢て之を制馭する
こと能はば今英國乃武威を之に抗するること難しと
見ゆるは明日は事之を奈何ぞむ曩に一千八百六十

七年三月十一日英國倫敦府に於て歐洲の諸強國盟
約決議ありその七個條是れ陸散武流の條約也其抄
譯爰に略述但し盟約に會するもの英法魯普以蘭白
等也○日北北部同盟各國に於て普王はして日國の
帝位に就らしめんと謀り去る十二月十四日北
部同盟集議院に議列三拾名一紙の捧冊を作り法國
に呈し九ヶヶ九縣の本陣を於て之を王に呈せり其書
に曰我ら國土我ら陛下に鴻恩に浴し流日既に久し
陛下に唱はせ我ら國民一ふ之に従事し其心力を
竭し其身を抛はて其命を奉ず今我ら軍中無數に生

民傷害を受く無量乃鮮血を草野に流し生民敢て之を惡く怨む其身命を忘るる陛下は幕下に属し曩の隣人嫉妬を以て我の國土に對し暴動襲來せしより我ら生民其身家城忘る筋骨を碎き生血を流し之を抗し武威を輝せり故に敵人其干戈を伏せ我の軍門を來り降を乞ふ非はむは我を敢て干戈を止むるあらざる也其陛下一ち以怒流すは日耳曼同盟諸國は兵器一ち其旗下に屬し其氣萃し此威風を成せり爰に於て我ら生民永く陛下は威徳を仰く是則陛下は高德也故に我ら日耳曼同盟各

國相議し陛下は日耳曼皇帝乃位に即らんと欲し其帝冠を捧ぐて之を陛下に奉呈せむこととて請ふ仍て今議院三十員謹むて之を陛下に奏し我ら國土無數の生民陛下は高德を仰ひて其英明に服せし今億兆企てて俟つ陛下靡草の徳風を以て我ら日耳曼皇帝は尊冠を頂き鐘鼓を鳴らし速らふ凱陣あらむこととて我ら日耳曼同盟國億兆の生民始めて帝國は民あることとて得永く其高德を忘れず均しく鴻恵を浴びしと云々恐惶再拜謹而之我ら高德なる皇帝陛下に呈す○今日ノ正九祭日と號し耶蘇

の生日よしと歐羅巴各國の大祭日也○同二十六日
巴里府の籠城今日既に一百日也○近日戦争の報知
ちし今朝軍務全權よて布令あり其書は昨日終日諸
軍野外ふ陣しと築城はるは土工兵を用ゆるは地中
一尺五寸餘の所咸く氷凍して働くこと能はれど云
今日の寒氣野外乃屯陣甚を艱苦ふるは城市人ふ知ら
ぬめむら爲ならん○一千八百七十年十二月二十四
日軍務官よて過日戦死はゼネラルプリーズ氏葬禮
は事を布令は

一ゼネラルプリーズ氏去る廿三日の戦は陣頭に

出て指揮をなせしは爆丸乃爲に討死せ給右乃葬
禮今日フリードターは寺院に於て執行せらる

軍務全權右諸事乃裁判を任せらる云々

○二十七日今日雪降りて市中ふ積はると三寸○十
二月廿六日夕四字二十七分軍中督務ゼネラルピノ
ワイよ給報知に今日メイヅンブランシユ乃地を於
て先鋒乃兵小戦あり味方壹人討死八人手負内一人
ハ士官也云々○昨日政府の布令日誌中ふ曰パトリ
ックといふは日誌會社三日の間其職業は禁せらるて
日誌出版ははれとて得は此日誌會社中よて軍中兵

法蘭西軍誌略 卷之五
三二
隊の舉動が書載せられたる日記を出せし故也是も兼て
軍務官よる布令は隊所の一大禁制の事なきハ也○
同廿八日巴里府に爆弾攻撃の報あり○昨二十日夕軍
中報告書より曰

一今朝以來普軍大砲を以て大いに我ら諸寨城に攻
撃せり朝九字項より昉まり夕五字より止む其雨降
れ如き爆丸を受ちて諸寨を即ち東岩ノアジール
ジャンアブロン山に諸寨等あり是皆大距離の地
に發射のへき迦農砲を以て其爆丸を放射したる
一今夜モンパシリヤン寨城の外に於て二回大爆聲

轟き響きしことあり是も普軍鐵道蒸氣車橋が破
碎せし音也

一今夜普軍シユウジープの鐵道止場の會社を
破却せり

一普軍巴里府外の寨城に近寄りて其砲臺が造營せ
り

一エルミダーセルンシーガニールワジールカラ
ン
クールネー各處に右の諸砲臺を造營せり又今朝
以來右の砲臺より烈しく射彈しノアジールロスニ
一ノジャンアブロンに寨城に向はて殊に烈しく

朝九字よは夜十字に至る此諸寨に於て死傷はる
その大略六十人其内死者八人手負五十餘人内士
官四名ある

一巴里府郭外諸寨上ふ普軍嚴しく砲發攻撃はるを
の今日よは昉まじは是れ巴里府籠城防禦はるこ
と一百餘日た久しき敵軍倦と飽さる此攻撃を
始めしなむ今日終日右に數寨中よは發射答撃
すは我ら大小砲は飛丸も亦殊に烈しきを敵軍
の死傷推知はるべき也と云々

今日我軍の左翼乃將帥ゼネラルビンノア軍中布

令ぞて其大意

一過日ゼネラルプリース氏軍に將としり接戦し陣
頭に出て指揮し討死せし日我軍市兵隊中は士官
及兵士其隊中を脱走して兵律に背たり徒ありと
云ふ是れ全く一時は變動も出ると雖も抑軍中み
嚴令あることハ衆人固よは知る所也縱令如何な
る變動起はると雖も其隊中を脱走し兵律に背く可ら
ざる事

一若し向後其兵器を棄て陣中を脱し奔るの徒ある
時ハ直ちに捕へて軍律に從ひ嚴科に可被處者也

云々

今日終日遠く郭外に砲聲の間斷なく轟震の音を聞
く是今朝以來普軍に諸寨城を攻撃は流るものと云ふ
○同廿九日○昨廿八日朝第十字三十分附大統領ド
ロシユ軍中よりの報知に曰
一敵軍昨日我ら寨砦に向つて嚴しく大砲を射發せ
されとも終日爆丸の雨降歇まざりし
一昨日大統領ドロシユアブロンに陣中を巡邏せし
に異事なし

一デロクロー氏に一隊其兵を擧て近傍の森林中を

探穿せしに埋伏に敵兵散亂狼狽し我軍若干に
兵を虜となせ其後又一小戦ありて我軍に討死
二人手負七人あり云々

昨廿七日普軍終日苛酷に我ら城寨に大砲を發射し
て飛丸雨に如く城寨中に討死カピテーン指揮一名
カピテーン一名スーリウテナン一名輜重一名手負
カピテーン二名リウテナン一名海軍士官四名市兵
指揮官五名死傷乃士官都て十六名也ゼネラルスミ
ツツ記○昨日府内より布令あり左に記す此程追々酷
寒の節に至り曠野屯陣乃兵隊其艱苦言を知らし

而一々兵士の晝夜其手銃を携へて氷凍中ニ立は其寒氣に堪へば又推知はべき也今府内乃人民之を憐む意あはるる乃其獸皮或ハ毛織の類を以て手袋及ヒ足袋を造りて兵隊中ニ給與せし其功德最を大をば可し若し有志の輩之を給與せむと欲はば其の其品物減市街督務に出渡せし然は時を直ち之を軍務に達して陣中ニ送らるし云々○二十七日の布令

方今我邦興廢危急の日也仍之政府の諸官各職都て事務に預られ士今年新歲に禮式一切廢止はる

き事

廿七日に布令の時勢逼迫し薪炭缺乏に及むる府内は人民惡業を働き明き地屋敷地は圍ハ板板剝掠し或は圍ハ中は材木類を攘奪し或ハ林園中は樹木を竊り伐り倒し盗と取れば徒多しと云是實に言語に絶せられ所業也今晝夜間斷なく市兵に巡邏せしめ其惡業を警む若し向後右等の輩あるハ直ち捕へて軍務局に送り軍律に從ひて嚴科に處はるべき者也又近日市中の薪炭缺乏せしより過日以來市中督務令を下し巴里府外郭の林木伐し其用

と給せしむへき也云々○今日日誌中より昨夕法兵
傷者四十人及病者四十名坂府内より送り病院より入せ
る云と云○今日郭外の寨城に於て終日砲聲の轟響
は遠く聞く○同三十日軍中報告昨二十九日敵軍の
攻撃夕刻に至りて最も烈し而して我ら砲隊之より抗
敵は遠くとも能はぬ又阿武論山頂の陣營保持はる
ら次爰より於て大統領職指揮して前面の大砲を咸く
後の方より引退るを其砲都て七拾六門其後又阿武
論山の屯陣を拂つて退陣せり夕刻敵の砲發益々猛
烈にして阿武論山及近隣の諸郷村より攻撃の彈丸雨

の如く其毀傷最も多し此手の防禦極め難め云
々○去は廿七日以來普軍より爆丸砲撃を初め連綿
たる諸砲臺より遠距離より遠くは爆丸の爆丸を以て
法軍は屯陣諸寨城及び阿武論山は頂き等と同時に
砲撃は遠くとも苛酷猛烈なり其勢當り難忍れは法
軍の前營悉く引退き其彈丸を避く爰より於て今日
大砲の彈丸其雨降最も多しと雖も法軍の死傷僅に
一死者只一名傷者六名也今日法軍竟り阿武論山
を保はんと能はぬ之を棄て其歩砲の二軍は引退を
近日獨軍より猛烈に射彈は所の砲之は普國より

リユツプ氏の大砲と號次○此クリユツプ氏の大砲ハ歐羅巴洲陸戰無雙の長大礮也曩に一千八百六十七年即ち今と距る三個年前法國巴里府に博覽會有し時普國より此礮を出して宇内の人目を驚かし萬邦の人膽を冷やしめたりと云法人嘗て能く知れ所より常々此礮に恐怖し久し今普軍巴里府攻撃し此礮を以て距離乃地より巴里府郭外の諸寨城を射法法軍は此礮之を應ひふこと能はば一層兵力を挫きたる○今朝未明より暮後迄砲聲府内より轟き實に間斷なし是を普軍彼の長大礮を以て郭外の

二三寨城攻撃しると法軍乃城寨より應はば大砲は響也○法固より大砲に富めたり雖も遠離に達し普のクリユツプ砲は比はるべきを代なく一昨日來只敵の彈丸を受ふの事し之を答ふること能はば阿武論山近村に配布したる砲兵の諸隊を引上りてさ寨中より入ると云○此クリユツプ砲は其彈丸八千乃至九千メートル(即ち我四千五百乃至五千間)は地を達し故に巴里府は人民も此大砲を恐怖して竊ふ其舌を卷く由也○同三十一日軍中報告昨日普軍より我四城寨及阿武論山頂の屯陣を終日猛

烈に砲撃し勢ひ防ぎ難々せし阿武論山乃兵隊及七十四門の大砲を咸く引上々辛ふしく退陣せし當日右四城寨中彼れ長大砲の爲に死傷ひれを乃左に如し
ノジャン城中傷者十四名ロスニ一城中死者三名傷者九人ノアジ一寨中傷者若干有り又ボンヂ一岩城中死者二名傷者六名有りと云く

○ゼネラルコンマンダンの報告昨三十日普軍はロスニ一寨より阿武論山迄の間終日間斷なく劇射し此地に墮はる爆丸の數五千乃至六千九ふせし其郡

郷及鏡道の途上ふ於て疵傷を被むるもの多し○灣泉城の報知一昨夜以來異狀ふし昨日普軍此城寨に向はる發射せし長大砲は彈丸を城寨の上を越へて飛ひ行き又其内若干乃彈丸を此城に墮中な落せしを城中に傷者ふし云く○モンパリヤン城は報告當城昨日以來異事ふし一日を敵兵我サンゼルマン乃蒸氣車道の橋を破壊せし又當城近村に地道に敵軍日々砲臺を増築せり○十二月三十日夜軍中報告敵の砲撃今朝八字四十五分より昉まゑ終日其射發劇烈也然しとん諸城寨中幸に死傷少なく只ロス

二一城中二名の傷者あり一ノジアン城ニ於テ朝
八字より夕四字半迄攻撃を受テ敵の彈丸雨下リ大
統領諸方ニ巡邏シテ其指揮を司トシテ云ク○巴里
府籠城百餘日ニ至リテ府内の人氣大ニ挫折倦厭
シ近日頻りに解軍の策を望ム勢也曩ニ九月四日
政體一變共和制度を建テよテ人民只政府の舉動を
仰キ望ミ大統領ドロシユ定めて非常の勳を以テ速
ニ掃攘の功を奏シテ思ヒシに今籠城既ニ一百
餘日ニ及ヒドロシユ軍頭ニ在テ指揮を司トシテ雖
モ日々夜々敵軍の亂入洩るを聽ヒテ之ニ抗ヒテ良

策あれど聽カレ又府内食糧及諸物品ニ乏シ盡ムと
洩ルハ府内の人民大統領ドロシユの處置因循遲緩
にして恃ムル所ニ流レテの説を吐クものあり故ニ衆
庶其退務撰換の策を竊リ唱テ動搖セムと洩爰ニ
於テ大統領ドロシユ府内の諸街ニ普ク壁書乃令汝
下流其文今府内ニ庶人及兵士中我都府ニ籠城既ニ
一百餘日我衆庶其守衛防戦ニ寢食を忘ルモ亦一百
餘日は即チ億兆同心力戦シテ巴里府城を陥ルモ流
ラズめむこと汝計ルニ外他なし然ルに時々騷擾起
シテ我一致親和ニ抗力を裂ルムと洩敵己ニ此ノ工

凡の祭日と當り我巴里府城を屠はる日耳曼は供を
 むことを計せんと未だ其事成らば今其堪ゆ可らる
 儀は傲慢暴働をふし千策萬計以て我を苦惱せし
 む是實に我衆死生存亡の秋なり然れど今巷説を聞
 き政府の合體割裂せらむことを恐る只我政府は
 一體此國難を身志を勞し身力を盡し他をしとい
 へども今日乃事皆人心に向背取舍の間に出入耳願
 はく我徒戮力飽迄盡力し國を報しと殫せむ耳云
 々一月一日(即ち我明治三庚午年十一月十一日也)軍
 中報告書十二月三十一日敵の砲撃日夜相増し其

砲臺築造は數を亦日々増加せり昨三十一日中我城
 寨ブロスヒーポヒューボンギー以北のアジールセ
 ックは地を飛來せる彈丸其數最を夥しく且巨大な
 り○同日ロスニールジャン及ノアジール諸城を攻撃
 せらるること極めず苛烈也然れども幸に此城寨中破壊
 せられし者甚塵よして其傷者亦多らる云々○
 昨三十一日夜政事堂中於て一集議有る諸軍督ゼ
 ネラール官悉く會合せり云々○今朝日誌中政府今
 日所置はるべき二個條の間ひあり其一日今日府内
 此狀態政府猶一層乃武威を振ふる抗戦し雌雄を決

決るべき若し然らば其策略之ヲ奈何其二曰目今
此事情戦ふて興廢を一時に決せしんハ斷然解軍和
平を謀るべき若し然らばこそ其處に處るべき事件如何
方今時勢切迫さばハ解軍和平の外他は策なき察し
るに普軍既其久しき攻圍に倦厭は涼色有る國王
ギョーム宰相ビスマルク又他意ある可し今若し
速に和平を計らば我共和制度を之を保存し得ること
を得可し若又我軍敗亂極まばハ普軍其必勝を極む
るに日に至らば彼に傲慢恣強乃普王我を一層に苛
酷を加へ再び新を以國王を置らむことを計ること

必ぞり是故ふ今日此事速に和平を計るを我共和制
度の上策也と云々○今日府内の事情眞に斯の如し
人民既其食糧を究困し戦争に疲羸し抗氣漸以解弛
し衆庶皆和平を望めば又政府は事情を監察して
政府自ら其武威此衆敵を噬獲て勢力に抗決するは
其を深く之を知れり然しとを諸郡縣に民兵敵に背
後を逼らむことを竊ふ恃めば也今若し和平を計
らば彼の強大の二郡縣を割き加ふるは五十億百萬
の償金並に手足と恃めざる海軍を奪とるべし是其脚
躓は所也又此共和制度を永久に保しめむと計り

其策を諸軍の將帥に問ひて竊に下民の向背を聽ら
んとし、今余は他邦より來る一介の書生を遣はし、これ
を傍觀量察し、今日廟堂の事能く其機を知り、
そのと言ふ可らば、曩に内政變革の日、今日の如き切
迫ふ及ぶ勢あり、固より前知はるべき所なれ、確乎を
既定策を建て、聊躑躅はるべき所勿論也、如何むと
され、此軍役を起せし、防めよ、法軍の敗報、日夜よ
來り、兵氣大に挫折し、殆むと抗敵はるべき所あり、
勢あり、
究竟はに九月四日、法帝那破倫セダン縣の籠城破れ、
自ら其抗決可らば、抗敵は知りて、敵軍門に降り、其

軍の諸將卒と共、虜となせ、是に於て、法國俄らに
内政を變じて、共和制度を建ち、當時法人皆曰、今次
の軍を法帝那破倫自かゝ好むと起せ、其所にして、曾
て法國人民は欲せ、抗敵所なれ、ハ敢てこゝを預か
り、一時に其失咎、法帝那破倫に皈し、衆庶競ふ、其
道辭、茲飾は最も醜し、諱し、普軍を亦曰く、今度、
軍我
と、那破倫に戦ふ、法國人民に闘と決し、是實に所謂
機會を失ふもの也、而して、今若し新ふ、昇堂委任の各
員諸職、此機を投し、起軍は、咎、法帝那破倫に皈し、
俄ら
り、和平を謀る、普王の望を、決して、彼の三大事件に

至らば可し是れ法帝那破倫其軍と共ふ悉くセダ
ン縣に虜にせしはと雖も其他の精兵未だ夥しく
且有名老練の將帥之輩率ひて前後に在りまゝ巴里
府城を容易と拔く可からば然れども汝知れハ也故に
法國共和制度ヲ建し初は那破倫ヲ起とし軍ヲ和を
計らハ其償贖僅よして又其後ハ損害毀亡ヲ受汝法
國の挫折今日の如きに至らば汝ハ共和制度
の功大なりといふへし而して當時其和平ヲ謀汝を
其贖土地を割らハ金貨海軍ハこれ汝保汝とてを得
るし然れに其勢ハ今日の如きヲ迫京法國政堂抗敵

汝に策略なく和汝汝其所爲なくして日々踟躕
汝も外を敵軍日夜と迫り内を旦夕に食糧盡き
饑叫街衢に滿は勢ハ鷲鷲豹虎の噬齧搏擊隨ハ汝汝
可からば汝此故に余惟へく法國内政變革も亦其機
汝得るものに非ハ亦其國の爲ふを汝ものこそ非汝
と○同日軍中報告昨夜終霄敵の砲擊甚しく夜半
極めく劇烈なり我軍中死傷若干ありボンヂー及口
スニ一城寨へ向はる砲擊汝殊り烈し今朝猶砲聲
止まハ他も異聞あることなり○日誌の附録云去
る九月四日法國共和制度を建てて以來政府此都城

城守禦は其の外他は務まらば衆庶も其舉動を仰ぎ
 望む然らば今日究迫極りて猶確乎斷然を其の所爲
 なく我衆庶何を標的とし何を仰ぎ望まむ今日
 の事只戦和は一にあてて他あることなき其目一と
 曰今府内の人民非常の憤氣を發して郭外充滿の敵
 兵を掃攘し而して目今其策略之を如何に云曰
 今府内の軍兵敵を掃攘ははたらけむハ他なく速
 に和議を講して休兵解軍を討はるし今政府斷然其
 方向を確定はるし今日のこと只戦和は二事あら耳
 云々○巴里府内の人民日誌中と載はる今巴里府内二

江戸軍令書 卷之五 十七

十街に在住の人数を其數左の如し

- 第一街 七萬七千八百三拾壹人
- 第二街 七萬七千六百七拾壹人
- 第三街 九萬六千四百四拾貳人
- 第四街 九萬六千三百四拾一人
- 第五街 九萬八千貳百拾三人
- 第六街 九萬零八百零三人
- 第七街 六萬八千八百八拾三人
- 第八街 七萬五千八百八拾人
- 第九街 拾萬零貳千二百拾五人

江戸軍令書 卷之五

- 第十街 拾四萬千四百八拾五人
- 第十一街 拾八萬三千七百貳拾三人
- 第十二街 拾萬零零七十七人
- 第十三街 七萬九千八百貳十八人
- 第十四街 八萬貳千百人
- 第十五街 九萬貳千八百零七人
- 第十六街 四萬四千零三十四人
- 第十七街 十二萬零零六十四人
- 第十八街 十五萬四千五百十七人
- 第十九街 十壹萬三千七百十六人

第二十街 十萬貳千貳百貳十九人

總計 二百萬零五千七百零九人也

此人口ハ諸軍隊ハ兵卒海軍兵卒及農兵の類ヲ除ヒ
 テ只府内に住スル老幼男女ハ人數ノモ也○同三日
 軍中報告一月一日夜敵の砲火今朝以來追々減シ午
 前十一字頃に至リテハノアジ一城及ロスニ一寨の
 近傍を全ク止メ夕刻に至リテハ總々砲撃を止め
 今今日ノジャン城ハ方々只時々徐々に彈丸來リ城
 中一名の傷者有リ耳○一月二日朝軍中報告に昨夜
 城寨都々靜謐也夜中二三彈シヤ千ユン城邊ニ飛來

ぞはツー九ダンゲしー塔を破碎して倒せしは是也
敵軍此地ふ陣營は依ならむと察せしは敵の爆丸攻
撃今朝ノジャンロスニーノアジー及び其周圍の諸
縣ふ防まて今猶歇は砲擊最もノジャン城に烈
し飛丸劇烈に空中に散亂し皆此郡郷に向はる來れ
りと云く○同四日軍中報告一月二日夜敵の長大砲
今日ノジャン城寨に向はる終日發射は其數六百彈
丸を然れども幸に城寨中破碎毀傷の物なく只手
負一人殊と薄手也○一月三日朝軍中報告今朝ゴロ
スしーの地と於て我前營乃屯兵少しく戦ひをなし

普軍若干討取て及生捕れて我兵手負三名一名を
士官也今朝以來此城寨烈しき爆彈攻撃を受て彈
丸雨降ぞは然れども異事なり○今朝以來諸城寨に
向はる敵砲は攻撃甚ち苛劇也○ノジャン城寨は於
てハ今朝と夕四字半迄其寨丸飛來は烈し
然れども此寨中只一人は薄手傷者あは耳ホンデ
一城は攻撃亦苛烈にして其爆丸は城中に墮る概ね
一三ニユート間ふ三個あり終日爆丸來り極めて
烈しロスニー城を其攻撃最も劇烈にして同時ふ
數彈飛來ぞは城中傷者三名也○今日日誌附録中ふ

第一世那破倫の前見を記しを乃あて日曩に西曆一千八百十年間普く歐洲に羣雄を驅はる殆むと歐羅巴洲を席卷掌握せんとせし法帝第一世那破倫の最後一戰大ひり破り英吉利の爲ふ虜とせり亞弗利加西部は一孤島セントヘレナに配流せらる六年の後一千八百二十一年終る此島中に卒せり即ち今を距る全く五十年也帝此一孤島に配流せられ其死後其の前常々慨嘆長息し云五十年の後歐羅巴洲一大變動有る各國各々其國體を變換し我法國の如きを舉て魯の爲に併せらるる共和制度と成るる

し而して魯獨の間最を強大の日有て勢以歐洲を壓し及しと屢々此言を吐て死せんと云ふ奇事は哉實に今年三月五日即ち那破倫死せり日より正に五十年の雪霜を經過せり而して今歐洲各國は盛衰状態實り爰に至るを見流嗚呼英雄俊傑は卓見又感嘆及へき耳○那破倫は事跡を萬人能く知流所也然りとを余今爰に毫を贅して其生前經歷したる年月を此に附し帝は姓をボナパルト諱をナポレオンと號し其父をシヤルボナパルトと云地中海コルス島アジャシユは小令に均しき官にして此地に住居一千

七百六十九年八月五日那破倫亞邪署ニ生レル一千七百七十七年フリヤンニ學校ニ入レル時ニ九歳一千七百八十四年巴里府の兵學校ニ入ル時ニ十六歳一千七百八十五年リウテナン軍務初等士官トシテ昇ル時ニ二拾七歳一千七百九十五年ゼネラ九官ニ昇ル時ニ二拾七歳一千八百零四年三月十八日法帝の尊號ヲ得テ即位登祚セマシ之ヲ第一世那破倫帝ト稱ス時年三拾六歳○一千八百十二年九月十四日魯西亞ヲ攻メモスコー府ニ入リ退軍シ一千八百十四年四月十一日帝位ヲ剝シマシエルブ島ニ配流セラルこと十個

月翌十五年二月廿六日再ヒ法國ニ入リ其兵ヲ集輯シ再ヒ巴里府城ニ入リ帝坐ニ就ク即チ一千八百十五年三月二十日也○同年六月十八日ワテルローニ一戦ニ敗績シ英吉利ニ爲シ虜ト成リ同月二十二日亞弗利加洲西部ニ一孤島ヲ奪フセントヘシナリ流況ニ此地ニ在ルこと六年一千八百二十一年三月五日島中ニ卒シ時年五十二歳即チ今ヲ距ル實ニ五十年也○同五月籠城既ニ一百十日也去ル十二月二十七日以來日夜普軍彼の長大礮ヲ以テ巴里府郭外ニ諸城寨ヲ攻撃シ其砲聲日夜間斷ス昨四日終日劇烈

乃砲聲を聞く今朝とを聴く敵軍モンパシリ
 ン城を烈しく砲撃せしむ又城中より之を射答
 へるに二軍の大砲を其砲聲震轟せりと云又今
 日甚劇烈なる砲聲の轟るを聞く○今朝軍中報告
 今曉四字頃普軍の一隊メセ乃前營を屠らむと欲し
 る俄に襲撃せり然れに此手乃隊中より烈敷小銃を
 連發し敵を咸く逐ひ返せし敵軍傷者を負擔し
 走り又此地に埋伏の敵兵ありし我前營に爲し
 襲撃せしむ敗走せり此時我軍に普兵三人を虜と
 せど京○昨夜敵兵モントシイユ及ボンヂーに城寨

を同時し烈敷攻撃せり然れども二城共大に損
 害あることあり云々○正月四日朝陣中よ京發せし
 報知よ今日東部の諸城寨敵乃烈敷攻撃を受る殊に
 ノジャン寨を極めし劇烈にして終日城中に爆彈雨
 降り其數一千二百に至る然れども幸いに城中大に
 なる毀亡あることありと云普軍は長大砲日誌中
 附録し去る十二月二十七日以來普軍長遠に大
 砲を以て巴里府城外の諸城寨に攻撃を日日夜旦暮
 に間隙無し而して此二十七日より一月一日夜迄六
 日六夜の間此城寨に向つて射る所は彈丸其數

都々二萬五千九也而し、此一彈丸は重量五拾ギロ
ガラーム(即ち我秤量拾三貫四百目也)此二萬五千九
は總計其量一百二拾五萬ギロガラーム(即ち我秤量
三億三千五百萬貫目の重量也)此彈丸を獨逸國よ
巴里府城外に運輸せんと欲しに二百貳拾のワゴン
を要しと(ワゴン則ち蒸氣車中各室也)此大遠砲一
發の失費金六十九フラン(即ち我金貨拾四兩)より
て今此貳萬五千發の彈丸の費金を一百五拾萬フラ
ン(即ち我三拾萬兩)に登ると云○同六日一月五日夜
五字政府より市街への布令

巴里府城中に向はる敵軍は砲撃既し此市街中に
及へり今敵軍の情狀を察するに我郭外の諸城寨
に攻撃はるると其望も非ず我巴里府街中より射
發して我衆庶を恐怖せしめむことを欲し而して
此數日間我城寨より烈敷射發しと雖も我軍中より損
亡毀傷はるもの殊に少くし敵軍徒に自ら其費
勞を採ら耳其上遠らるに我郡縣のロアーの郡
兵起はる敵の背後に迫り及北部郡中の兵猶來り
府内より應援はる近日我諸郡縣に援兵來りて敵
を掃攘はるの功は佐く流の日ありと云く生活さ

よ法蘭西振起せよ共和政度

○軍中の報告昨夜普軍の士官一名前營に生捕せり今朝敵兵ボンヂー寨を襲撃し朝八字より夕四字半迄砲戦絶へたりとも此寨城中異事ある事あり東部の城寨はイツシノワング及センバージの諸寨城より敵は砲弾厳しく雨降し特み遠く彈射を以て散若の地に至る今日諸城寨中戦死九名内一名ハ士官也傷者都て四十餘人内四名ハ士官也昨夜敵の爆彈終夜ノジャン城に飛來はと雖も其死傷殊に少しモンルージ城に向はてハ敵兵今朝より烈く射

撃し又モンルージワンプイシーの三寨も終日射撃して砲彈亂落せり此時敵ハ砲臺をシヤキヨンより丘陵の頂上ニ備へたり爰に於て我諸城寨より對射は砲火亦劇烈也云々○後裝砲を法國近年に新製也其彈丸の貌は圓柱尖狀にして且旋條彈也

爆彈の圖

長サ八寸一分五厘八毛

圖

此彈丸は速力一秒時毎に四百メートルを飛行し(即ち一秒時間其飛行は速さるること二百拾一間也)而

して此彈丸其砲口抜出るべ後一メートル九八拾デシ
 メートル九(即ち我五尺五寸)抜通り往くべ間に一回轉
 を爲しこれ其彈丸に旋條あはら故也故に此一秒時
 間に其螺旋回轉はこと貳百貳拾二回也其速力は
 迅速に従はる彈力の劇烈を知らるべき耳○普軍一
 昨日以來彼は長遠に迦遺爆丸を射巴里城坤は方の
 寨外よは府内の鉄道を崩壊せむこと欲し暴發
 劇射は彈丸亂落し府内は西南に隅部に破裂して
 近傍の人家毀傷はるを不尠之み依る街中は男女
 死傷はるを若干也○今朝余は知人の法人一名來

て語るよこの者の友リウテナン某あるを昨日夕外
 陣より府内に入るとこの街中を過り其家屋に入らむ
 とはるに忽ち彼の爆彈飛來しその脅腹に當り左
 方の手足俱に散飛し總身破碎し殪と云と云○
 昨夕巴里府の河の左側ある兵學校の側ら運動場
 爆丸二三個飛來せりと云○同七日一月六日夜軍中
 は報告を云く南部の諸城寨あるモンルノピセー
 トルノジャンの諸城寨に昨夜敵の砲撃絶間なくそ
 の彈丸の亂落は一字間を三十九也その攻撃の苛
 烈なる瞬間の休止をなし曉三字として歇む今朝八

法普軍等誌畧 卷之五

字再以前の如く攻撃彈丸亂落然も幸に寨中損亡あはことなり今日前營の砲臺に又烈しき戦あり此とき周圍村里街中可多くは爆丸着落せりといへとも破損碎害あはことなり斯の如き敵軍の暴撃襲搏を視るといへども府内の人民沈靜して更に騷擾の色なく然も今敵軍の劇射は弾丸を却て我衆の沉勇を養成し之を謂は可きは是他無し我衆飽迄盡力しその本國をして亡滅の汚辱を取らばは様報國の赤心あはなり云々○昨日政府よ京巴里府市街へ壁書の文に曰自今敵軍非常の暴却

城以て劇烈發砲し我を苦しめむといひ此誠之巴里府城の人民一致戮力し各心志を竭して飽迄防戦決死の期也我衆何をも報國心を抱き義勇を振ふをし必しは携ふ所の兵器を脱はれことなり巴里府總裁職を曾て開城はらばは也○エリテと號せり日誌局乃社頭政府に壁書は誹謗はれ文數章を記せり其一章は曰政府敵軍に劇烈なは襲撃に對ふは今二個の壁書を以せり其一は一昨夜其二は昨朝市中に示令決死所は二書なり曩に九月四日國體一變共和制度と成りて以來政府努めて府内可其

眞意を灌き顯せ察而して府内ニ布告せし所ニ書正
 直にして添削ある見ゆ然れふストラスブー
 九縣メツ大縣落城しオ九シアン縣に敵は掠鹵進入
 せし以後政府屢く其言を失せ是衆信伏せし所
 一也而して人心一日ニ乖離せむと況方今危急逼迫
 今日迄未だ其災害見ゆるを僥倖也一昨日政府普
 ねく府内ニ布令汝所の書中其章句怪し疑ふ可く
 而して信伏汝可らざる汝の一句あり曰我府内は人
 民不日ふロアール九の軍敵の後面ニ旌旗を擧ぐ又北
 部郡縣は民兵亦其背後ニ進撃して我府内の應援に

來れしものを見れば可しと云此文即ち曖昧不慥の失言
 也ロアール九の軍敵を掃攘し北部の民兵我府城の應
 援に來れしと此二個條何れ日何地に其蹤跡報
 告あらずや府内の人民及余等未だ曾て其報告を聞
 らざりし所也近日政府布告せし處の新聞報知と云フ
 ロアールワンドーム及びワール九の諸郡縣都て普軍の
 爲に掠鹵せらるるを云々他は異聞の布告ありし
 を聞らば然らば政府以來の報知警報を得ると雖も
 之を秘して府内諸民に布告せしこと明瞭赫然
 あり今問ふ此ロアール九縣の兵敵を攻撃し及び北部

乃民兵我府城に應援に來らむと云ふ其形狀事態奈
何得て聞くべきや否や若し其聞くことを得へら
ばむハ政府一昨日の布令書空言虚章たること明白
也若し然らば今政府の咎科も亦輕らざる可し如
何むと云ふハ今日我億兆の生民一は政府の布言
を信仰し其方向を索め死生の間を涉らば也而
て又其文尾に曰生活せよ法蘭西振起せよ共和政是
法人等常に唱稱はるの國言祝語也此語を共和政體
變革以來今日に至る迄政府示令書の文尾に書載
する不易の贅文也今此語何と云ふ爲らん此老言今日我

法國及其共和政堂を生活救助爲し得可らざるは其の
贅詞也又第二の文章昨日布令書の流所のもの其文意
極めて老耄を以て今日に迫り民に向はる頻りに義勇
報國を屢く説く固よは衆庶の知所也恐らくは政
府最早其義勇報國の抗力に缺乏を感ずらむと察量
せられたるし但し是等の文意爰に咎討はるの主宰に
非は然りと云ふ其語尾の末文に至れば曰巴里府總裁
職を曾て開城演説するに云々此語最も其意を解
し難し今其約束の主意を如何に敢て其對答を
俟は是即ち民命に關係するの重大事件を輕卒に

ふんのも非はや如何をとなせば今府内の生民を戮
力一はに飽迄守りて其開城を爲は可あらざるもの
啻ふ巴里府總裁職一人のこも非は又其一人に限る
可あらざる府内の人民舉て爰に在らばむはあるべ
くは何ら故に今我總裁職を斯の如き一言を市民に
布告せざるや或は恐る今府内の人民等を輒に其開
城を計はて可ならむ乎と今夜時既に深更に及むて
日誌上梓の時限に迫り而して揮毫のこもに嗣く
可時刻なし今余は右の最大疑問を捧書て伏して其
答論を俟は上を仰て廟堂政府の對命下を俯して府

内民庶の對答ありむことと余其解説討論を得て聞
くは後曾てこれと日誌中の書載して昔ひく公聞は
へしと云々○余常々嘆は法國の人民其心傲慢にし
く上を恐るは官を憚らば恣まると其政體を誹謗し
其廟堂を輕蔑はは其慣習常々巴里府に風俗也而し
て彼等其寸舌を才を逞ふしと以て輒はく國事を哂
罵はと雖も固より出づ樞機ふ當は可あらざる徒に市
人を鼓動し動をばは激動しと其政府を變革せむ
とは故に其柄權概は下民に在て而して廟堂深く下
民を怖る尤も政路の奧秘爰に據るはむはあは可あら

とさきとを其民の主たるの嚴權固よ其主宰たる
惟ふと法國の如き勢以那破倫の如き帝王上よ在
流て自らら府内を踵下と踏と全州を一途と掌握以
るに非返むは得と之を制馭を為らるに迎ふ此傲慢
に人民上み合衆共和の制度を曾て行ははるるに
曩み其國體變革共和制度を建るの後余等漸次竊に
此巴里府總裁職大統領職ドロシユ氏及其他共和政
堂各員諸職に進退舉動を視れみ其所置常み府内の
人心に媚ひるの色ありて今法國危急存亡の期に至
ると雖も猶只其人心を宥安むるに竊に其衝動を

禦き廟算を進伸し難く爰に於て草莽の見識常は廟
堂の上よ進と日誌會社の著迷者にら其大言傲慢又
此極に至る況や有識の人をや而して今日其國家興
廢の日よ至はて廟堂と草莽との間其情實槩は斯の
如し其國事の狀態得て察はし今余其秃筆を贅し
て努めて前章を抄譯は是則他日事情を顧索はるに
參閱は便とむる爲也○同八日巴里府總裁職より布
令一月七日軍中よりの報告

昨夜敵軍我諸城寨に劇射はる彈丸の雨降實に酷
烈也ノジャン及ロスニ一の城寨中幸に破毀甚と

大ひならぬ傷者一人ありノアジー城ハ敵軍其表面
面み三個ハ砲臺を築き其城を烈敷砲撃せしハ城
中より我兵ハ砲火亦劇烈なり今朝八字よリ敵軍
又諸寨を砲撃せり此時クーニネー普寨城よリ傷
者三名死者一名ありモシルージワンプイシーハ
三城み向けてハ終日敵軍暴射の爆彈飛來し其彈
の破裂ことハ劇シ城中毀傷瑣々死人四名傷者若
干也オートプリユエー九及ムーラシサケの前營
城中み於る者敵ハ砲火雨降派事こと往日よリ少
しく減しち然此城中傷者五名内一名を指揮官也

ヒセート九城寨に於る者若干乃彈丸墮來りしと
を損害なし又幸に死傷派見派敵軍を大砲數門派
千エー乃地み備へ其角度派定め爰よリ我イトリ
一城の方向及セーン河乃左側に向て劇射せり
我ムードン寨城よリ嚴しくことに對發せり又
ポアンドジュール及ブーロン此街を巴里府ハ西
南ハ隅に在り街中に於る若干の人民死傷せり南
部前營よリ報告に我先鋒昨夜シヤ千ヨン岳陵
に登りしと云々

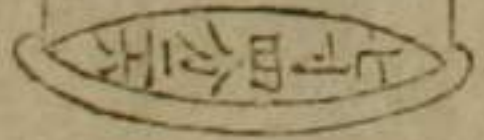
普軍今巴里府城周圍に配備し日夜遠く府内の市街

發射所の長大砲を歐羅巴より比類なき獨逸有名のクリユツプ砲(クリユツプを製造家の名あり)にして此砲二百門を其城の外郭に配備し一門毎に爆彈四百個を配與せ給而してこの彈の總計八萬個ありと云○巴里城東面の諸城寨に向を備へる砲數を凡八十門にし普軍を之を其寨上り向を毎日發放せ給此時法の前營寨城及び周圍の村郷を亂落砲の彈丸凡二萬ありと云ふ○南部の諸寨城及府内市街に亂落砲の彈數大畧前文に齊しクリユツプ砲を鐵製の後裝砲にし其口径法尺に二百二十三ミリメ

一ト九(即ち我曲尺七寸四分二厘六毛に當處)の大砲あり其重量を法量に二萬五千ギロガラム(即ち我量七萬二千零二十五貫目)當はふ給へし其爆丸を法語よりオビユスと號し即ち鐵製爆丸の義にし其貌を圓柱尖狀也其略圖を下り附し

爆彈の圖

長サ壹尺八寸三分一厘五毛



長サ壹尺八寸三分一厘五毛其徑七寸四分二厘六毛

其重量百四十二ギロガラム(即ち我三百八十貫七百目也)此彈丸の速力ハ一秒時ニ法尺四百二十メートルヲ往き(即ち我二百三拾三間一尺ニ當る)一晝夜ニ一百五十發ヲ射ス其距離九キロメートルニ達ス(即ち我二里半の里程也)歐洲陸軍未曾有ニ長大砲ニシテ人として其舌ヲ卷キ其膽ヲ冷然シモ○同九日軍陣よりの報告

昨終日我郭外諸部乃城寨ニ敵軍の雨丸襲來スル前日ニ均シ此日巴里府總裁職諸城寨を巡邏シテ大ニ府内人民ニ報國義勇乃抗力を感動セシメ

云々

昨日巴里内諸街中へ布令

方今我都府巴里府城其圍ニ受テ籠城既ニ日久シ過日ニ市中ニ布令セシ如ク大麥小麥總テ穀類貯藏スルモノありハ之を政府ニ申告スルニ政府其當價を以て買ヒ入ルベシ而シテ此穀類市中食糧の麴包ミ給用スルニ若シ此令ニ違背シ隱ミ貯藏シテ出スル籠城後通商全權の免狀なくシテ穀類を賣出スルものあれば之を罰して五百乃至一千方ランの贖金を取り上ク可シト云々

今日巴里府市街督より第二街中へ布令

此節敵軍の爆彈日夜府内ニ雨降霰亂せらる就て
ハ市中北部の市民之ヲ爲ふ其身家ヲ毀傷洩るを
の甚らる洩仍之其災害ヲ避くをらため府内第二
街部中ニ轉寓せむと洩るその甚多し仍々當街
に空屋虛室ヲ所持はるものハ貸し與ふべき也尤
其貸借ノ法ハ右市街の宿老よリ證券ヲ相渡はへ
し

一月八日

今日巴里府内周圍の鐵路蒸氣車諸會社中への布令

此節府内周路ハ蒸氣車一切禁斷せらるへし又川
蒸氣船ハボアシトジウール及ラルマ橋ハ間其通
行ヲ禁止せらる是近頃普軍ハ爆彈兩降し死傷尤
も多き故也云々

昨日セーン河左側の市街中リユクサンブール街中
ニ若干ハ爆丸霰亂して家屋ヲ燒毀し傷者不尠中ニ
就々最も憐むる途上一人ハ男夫此ヲ爲に其頭
頸ヲ破碎し殪せられたと云○日誌中ニ自今巴里府城
守兵の數ヲ記載はるハ海陸の本務兵卒七萬五千
人諸郡縣の民兵九萬五千人巴里府市兵四十五萬人

鳥合の急援兵三萬人都ての計六十五萬人を出渡と
云○同十日巴里府總裁よて一月九日軍陣の報知を
布令渡

今日巴里府外寨マムメーゾンの地敵襲を受た事
極めて劇烈として特よアポルパンテンの近傍に
多敵の爆弾の亂落渡りこと都て三十彈也又此地
の一病院中よ若干の爆彈亂落して病人給使の婦
女一人即死し院内の病人及疵傷者等都て害中よ
轉臥せしめたり又府内ワルドクラスの病院中よ
も若干の彈丸亂落せり自今敵軍其爆彈を射たふ

府内の病院家館を標的にされと察せられ是憎むべ
きの所業よ非渡や渠を軍中戦争の槩則定約とも
よらひ又人情惻隱は事態をも顧みは昨日敵の爆
彈南部の諸寨城に雨散ひ終日間斷ふし然れども
も其雨降渡り事前日よても少しく減せると云く

一月九日夕刻

昨日使鳩二羽府内よ販來し郡縣の報知を齎し來は
内務職ガソベタより送た處也其文意を郡縣の兵日
夜盡力して府内の應援をむとみ而して其兵威大に
振ふに至れ意を記せり其文極めて宏遠なれを以て

其抄譯を爰に略次内務全權ガンベタ氏十二月二十日ブールゼ縣を退去しリオン縣に八日滞在して二十八日ポルトウ縣に新建府を入せりと云○十二月下旬以來郡縣ニユイリ地に數日此戰爭あはれ法國郡縣に民兵一萬人普軍二萬五千の兵と戦へり而して法兵の戦死一千二百人普軍に戦死七千人あり獨逸國同盟北部の大將バトギョーム侯是に死せり近日より我郡縣を掠め蹂躪せる敵兵を驅り大いに掃攘の功を奏せしむると云々○今日郡縣より使鳩の翼裏に就て報知せし他邦日誌中より八月上旬

普軍初に法國の境内に侵入の後今十二月下旬に至り戦死兵既に三十萬外に又病者十萬ありと云今普國新に募る兵銀夫十萬人孤夫二十萬人外に又國內に布令して應援の兵を呼ぶと云○是國王以國王の子に今次新に入國即位の大禮を以て去る十二月二十八日夜是國に都府馬德里に入興せり此時是國政府の百官諸卿出て之を迎ふに途上賊あり俄に數發の砲聲響き軍務全權大臣プリム氏を射ちプリム氏も三發の銃彈を受て傷創頗る重く腫るるを生を保護し其居館に皈りしふ翌三十日夜九字竟

死に云翌三十一日、是國の新王即位、太儀普く
全國に公聞せられ、其法令を布たりと云。○此日、是國
の政府普く市中に嚴令し、市兵乃砲器を都に官に収
めしむ。若し遲循の輩を人とし、家屋を搜索せしめ
其令殊に嚴也と云く。○歐洲列國も公法規律あり
て互に相對戦せり。故に守者其本城を籠城せり。時攻
者之を抜くに他術なく、其府城を韜むる砲撃せむ
と欲然。然る時之を砲撃せし、依前一使を馳せて其旨
を守者に通し、此に因り其守者府内乃老幼婦女病者
及外國人等と其地より退く其難哉。避るしむ而して

後攻者之を砲撃は、是近世歐洲條約に公法にして、列
國軍律中の一則と然る。今度普軍巴里府を圍む
て後、一百日十二月二十七日以來、恣まふ彼れ長大
の砲を以て遠く其諸寨城及び府内乃市街を破毀し
る。其攻撃を逞し、ふ然るに曾て以前之を報聞は、
ことふし一月一日以來、頻りに其彈丸を飛し、暴慢殘
酷府内を射る。其爆彈病院及び傷者居住乃館内に墮
ち之を爲す死傷は、るも不少。法人是を罵り怒り、
其所爲殘忍の極度也と怨む。而して今日、法國政府衆
議乃上外務全權より一書の廻文を造り、普軍都府砲

撃れ軍律公法に據らば傲慢殘酷を所爲する旨を認めず普く歐洲各國の政府に送出せりと云く○余惟ふに普軍初め自ら圖るに巴里府籠城のこと其人民乃方向一途なく所必は不日よし府内攪亂し遽らに開城せしむと然るふ今籠城既百餘日に及ひ未だ開城の期無く依て速之を拔らざるに其老幼婦女を避くしめしむ速に城中乃粟を盡ししめ而て後之を加ふるふ一發轟震恰を雷電に均しき爆丸を以て日夜其府内を爆鳴霰亂せしめ第一は婦女子を恐怖せしめ第二に市人の膽を冷やしめ

遽らに府内を攪亂せしめ其開城を速よせせとの權謀可出れからず乎然とを此都府攻撃に軍律公法に至りてを固よ其強大を頼り犯し破る可らば然るも乃也然らば公法上は於て其所爲殘忍暴酷と謂ふとも又可なくむ乎然とを余惟ふに普軍よ其智勇の良將あるあり然らば其強大を頼り勁暴を示し豈に公法を犯はんとをせや其兵力に強大な依を以て從はて宜しく其大律を正し勉めて其公法を守らしむるは是強者其人を制馭は依は方略ならむ乎人若し其強大を頼り其法律を漫よと何を以て之

よ公法大度を施す可きもや然りと雖も今日歐洲は事情強雄必しも其舊法古約を主とせし特り權道を出て百戰百勝の後隣藩を裂割し土地を併せ其勢に依て律を設けむといひ今日歐洲虎豹の方寸也曩に那破倫の普ふ向ふて兵を擧ぐ軍を起し乃日其理其律之を奈何む余輩は一小生を以て之を視せば傲慢嫉妬の強暴に流出れ外なし是槩して今日歐洲に變動時態ならむ乎今法國此事態を以て歐洲各政府に廻文傳達せしむ依て意他日督責公論は一種を植ゆはをて乎然しとを余惟ふに天下に公法一日を廢弛し

可らば其上歐洲に人常に其文明開化を以て宇内を誇れ恐らくを其意法律を尊ひ其強大を以て恣まらふ暴酷を他に加之はれ謂らむ乎然らば今法國軍使を馳て普に本陣に遣り其非を算へて其過失を督責し二國各々法律を犯し汝公明を以て快く其戰爭を遂るて可ならむ乎二に巴里府内には萬邦各國乃外務全權在勤し其府内は居留はる國民は生命を預るはこと無數也然るに此外務全權等面あり攻者は殘暴に噬齧を逞ふして其公法規律を犯しを徒らと黙視傍觀はるは謂あらむや然しとん今日に勢は

列國は衆權拱手坐視して敢て其督責を手と下は
色なし強者をしゝ其非を遂るを志し者と云ふし○
同十一日巴里府總裁より昨日軍陣は報知書を市街
中へ布令

昨夜二個所は前營よて小戦あり前營南方は戦ひ
とちコロネルコント之を將たりし一戦よて普
兵卒貳人を生捕り且數十は甲兜銃砲衣衾は類ひ
多く分捕りぞ我傷者七人ある

前營北方は戦ひコロネルオリオン之に將たり
此手にハ普は兵卒二十一人を虜にハ我兵死ハ

者一人傷ハくハ三人内一名を指揮官也外ハ又
市兵一人傷ハく

今日諸寨城に敵は爆彈飛來ハ事昨日ハ齊シ

一月十日

十二月二十八日ロシハ縣ハ日誌ハ郡縣ハ報告
を載ハ其文に曰方今獨逸國中ハ諸寨城既に法虜
充滿ぞ我故を以て近日より法國メッス縣中に其法
虜を入置たりと云而して此縣中ハ幽閉の法虜大凡
一萬四千人也と云○昨日巴里府内北部ハ諸市街中
所々數多の爆彈飛來亂落して途上家屋病院臥床中

に死傷する者若干也又オージラー九街中ニ數多の
爆彈雨降して死傷甚しく同街乃貧生學校中ニ一
一爆彈來りて忽ち破烈散亂して童兒五人一同に即
死し且五兒を傷たり○ジャルダンドブラント(巴里
府内動學植學礦學の大場にして宇内ニ草木萬邦の
禽獸山海の動物を集むる場所也)中の病院に若干
ニ爆彈飛來せり然も幸も死傷なし○サルペト
リエー九街中ニ十九の爆彈飛來り○ビキエー街の
病院に爆彈若干墮り婦女三人死し他ニ若干ニ傷者
有りと云○昨日余風氣感冒邪熱を懷き夕刻よ臥

床に入り夜間熱氣屢々襲ひ起て眠ること能はば
終夜床中ニ聞くと獨逸長遠の爆彈府内市街ニ雨降
り其轟震極めり劇烈余ら近街に爆鳴烈碎はるる
の如し夜十一字後よ夜半を徹し曉三四字最を
猛烈也○同十二月一月十一日軍陣よ京報知に云昨
夜諸寨城に敵の砲撃終夜間斷なく府内ニ攻勢殊に
劇烈にして雨降れ爆彈所々に散亂は然も破毀
死傷極めて甚し○郭外南部の諸寨中雨降れ甚しき
をイシー城を極と次此寨城最も敵の目的と成り異
部ニ寨城破損尤を輕瑣也云○去る八日九日巴里

府ピ千エー街の病院に數多れ彈丸雨降して各院諸
寮の病者多く傷々也又典藥醫寮の諸室中に數多れ
彈丸墮ちて死傷若干也今次敵軍我府内に砲撃はれ
み其標的最も病院及傷者の居館にありと見ゆ此古
來の軍陣み未だ聞らばは暴襲也斯く敵軍醜業の所
爲を永く其歴史に貽は可しと云く○昨十一日午後
普軍中より傳送の一使法軍に前營より來りて送達は
れ一書翰有る此即ち英國外務宰相より送は處るは
其文意を曩に魯西亞黑海を取め土耳其格は地を併せ
入せむといはれ問ひを更に歐洲諸國に廻文と曩

に一千八百五十五年魯國黑海を吞むて土國は地を
蠶食せむといはれ時歐洲は群雄合從して之を拒む魯
と戦ひ魯兵を去る其境上は犯は可あらばは約は
立る其境界を畫きは此時法帝那破倫主とて土
國を救ひ魯國を拒戦せり今日歐洲は事情攪亂をむ
といはれは機に應じ魯國再以此約を廢弛し其長計
を伸むといはれ爰に於て此廻文は更に各國に廻せり爰
を以て其事件の裁斷拒許の二途の間今次倫敦府に
於て各國全權集會評議は故を以て法國外務宰相ハ
ーブル氏を會せせら爲る書を送りなり今宵六字

半刻法國政府の諸官各職政堂に參會して其事件及其出會の成否を集議然れども其外務職の出行次第をきや否や其向背未だ知る處ありしに○フレデリツキシヤルくと云ハ獨逸王の一子にして勇悍材武能く戦ふ常ニ先鋒を在て大軍を率ひ其指揮尤も精練也過日以來巴里府内傳聞し々オニスアン縣の一戦に傷ひて陣中より引きたりと云然れども人其確證を知らず然るに此五六日以前巴里府内乃一大河セーン乃水上より一壘を漂流流れて見て此必汝間諜に密書ありきこと疑ひ人々之を取て開くと果して數通書

類あり則巴里府城外東部に村郷中モ一なれ郡に在陣に普軍より河水を沿流して府内を過き其西部に普軍を送る所は書類也其中に云我先將フレデリツキシヤルと候過日の戦に傷ひて今モ一縣の陣中ニ療治してありと云此書直ちに日誌社中に布して普く府内に公聞せりと雖も其眞偽を知らざりし也然れども一昨日の戦に虜と成たる普兵拾八人を法軍の寨城中に輸送せり時ニ法人謀はて其眞偽を探らむら爲突然之に問ふて曰其以來フレデリツキシヤルと候に傷所其安否如何と普國に虜兵愕然疾く

法人其状態を知らず察し踟蹰かく即答とて曰余
ら輩近日彼れ消息を聞取只彼れ曩ふ重く傷を蒙り
云ふの一報を知れ耳と爰ふ於て府人始て其實を
事を知りて○昨日府内南部のブールアールモン
ルージュ街を通行しぬの敵の爆弾ふ中へ忽ち頭足
二分りなれり殪れと云く○同十三日昨十二日軍中
よりの報知曰く昨十一日夜我前營の兵隊アラトウ
アブロン山の敵兵を襲ひ敵を掃攘し兵卒六人を虜
にせり昨夜中巴里府北部の市街を爆弾亂落せし
と前日と均しく夜半より曉二字過迄の間極めり劇

烈とて其彈丸の數大凡一分時間に一發を放せり
其猛烈を知らず又想像しへし城外の諸寨城は南北
共に其砲撃を受れ前日は齊し又我諸城よりの多く
應發して敵の砲臺を射碎せり當日前營隊は壹人の
兵殪れ云々○昨日巴里府市街へ布令

今般籠城中府内に於て敵の爆弾を中り殪死せる
所の人民は政府之處を求めると恰も戦死の兵隊
に處はれりと均しき事
又右戦死横死せるを乃て妻子へ遇はるの處置は
猶戦死したる兵士の寡孤を處はるものと齊し

るべき事

一千八百七十一年一月十一日

○日誌中ニ歐洲四大國の土地の幅員及其人口乃大數を記載する事あり即ち普國土地の幅員二千七百九十一方里人口四千零拾四萬八千二百零九人也其國土及人口の數内ニ現今領有被る法國郡縣の口一ラン及アルザツスの二郡ハ既ニ其版圖ニ入るを其の合算也○法國土地乃幅員二千八百七十六方里其人口三千六百四十二萬八千五百四十八人〔此内上乃二縣を除く〕○魯國土地ハ幅員三萬零々八十五方

里其人口六千九百七拾七萬九千五百人○奧國土地の幅員三千二百三十四方里其人口三千五百九拾四萬三千五百九拾貳人是を歐洲地續き乃四大國と云○今朝より市中ハ麵包焼師多く其戸を鎖して賣らば市人騷擾大ニ起り人々困窮被る○同十四日一月十三日軍陣より報知云昨夜諸寨城に砲彈を受る前ハ齊し然して市街ニ爆彈の亂落被る事ハ一層劇烈也同夜十字より夜半まで尤も甚しく又外寨城ニ敵軍屢々襲來せり然るも悉く掃攘せり此時敵ハ手負或ハ生捕る者若干なれ去る十二月二十七

日よて敵軍我を砲撃して莫大の彈丸を費しるれと
も幸よして我軍よも死傷の少なかりしを我軍に諸
士官諸兵卒及諸市兵隊忍むて能く艱苦を嘗め報國
の爲よ其身を致は是余ら深く感嘆はは所也又府内
人民に靜謐なは實是感はへき一義也と云○昨日巴
里府市街へ布令

方今籠城中府内蓄貯は馬多く其食糧は屠て食せ
りと雖も砲隊運輸は諸馬は勿論市中運用オムニ
ビユス〔馬車に會社中〕社中の馬等ハ必貯へ置き
其用ふ給はへき也猶又市中諸品運輸はは其輦

車の及ふ可あらははの用ふも備めへし最も此馬
車は據らはは可あらはは之と仍て今府内貯蓄は馬
二十街中人口一千人よ馬一疋の配合を以て其每
街よ備へ保はへきなり其馬數即ち第一街馬七十
八疋第二街同上第三街九十六疋第四街同上第五
街九十八疋第六街九十疋第七街六十九疋第八街
七十五疋第九街一百疋第十街百四十一疋第十一
街百八十五疋第拾二街百疋第拾三街八拾疋第拾
四街八拾二疋第十五街九拾三疋第十六街四十四
疋第十七街百二拾疋第十八街百五十四疋第十九

街百十三疋第二十街百八疋其總數二千疋此點檢
使ふハ府内二十街中每街の督及宿老職なる者委
任せしむ候事

商農全權右の督務たる可き事

一千八百七十一年一月十二日

昨日商農全權より市街麵包商人中へ布令

府内食糧の麵包賣出は義ハ從來買入るゝ近隣同
街の市民の外妄りふ他街の住民へ賣は可らば
及府内市街督より出所の人口分量の證券を以
て其麵包の秤量を定め賣はるゝ事

一千八百七十一年一月十三日

法普戰爭誌略卷之五終

三十三

